

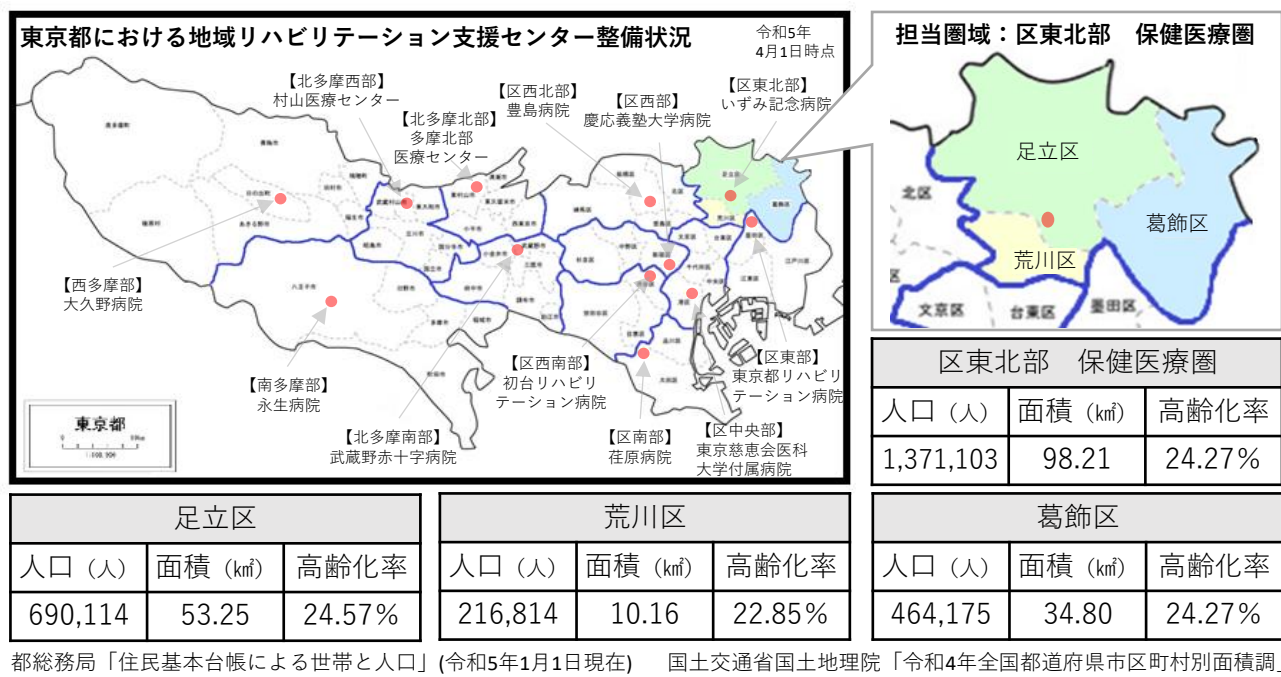
東京都地域リハビリテーション支援事業

目的

東京都地域リハビリテーション支援事業は、おおむね二次保健医療圏ごとに地域リハビリテーション支援センターを指定し、当該支援センターを拠点として、地域において様々な形態で実施されているリハビリテーション事業を支援し、地域におけるリハビリテーションのシステム化に資することを目的とする。

事業経緯

平成11年度 国が「地域リハビリテーション推進事業」を開始
平成12年度 「東京都リハビリテーション協議会」を設置
平成13年度 「東京都地域リハビリテーション支援事業」を開始
都における二次保健医療圏に「地域リハビリテーション支援センター」の設置開始
平成17年度 国が「地域リハビリテーション推進事業」を廃止（老健局通知）
平成18年度 都における全12二次保健医療圏に「地域リハビリテーション支援センター」の設置完了



区東北部地域リハビリテーション支援センター 令和5年度活動報告

I 事業目標（令和5年度）

地域リハビリテーション支援センターとしての取組方針（全体目標）

- ・人口の高齢化、および在宅生活の多様化に伴うさまざまな地域におけるリハビリテーションのニーズを把握し、地域リハビリテーションにおける支援の拠点として医療・介護・保健・福祉・行政分野における各関係機関、ならびに関係職種との有機的な連携体制やネットワークを構築する。
- ・「区東北部 地域リハビリテーション協議会」では、地域リハビリテーションの現状と問題点を把握し、取り組むべき課題について協議を進め、年間の事業計画へ反映する。今年度は、区東北部保健医療圏域内の各区へ「介護予防・日常生活支援総合事業におけるリハビリテーション専門職の関わり」についてヒアリングを実施し、地域包括ケアシステムの推進に関わる支援へ繋げる。
- ・災害時リハビリテーションの支援としては、自治体が取り組む防災計画の把握と理解を進め、必要な助言や技術的な支援を行う。
- ・地域リハビリテーションにおける人材育成や質の向上を目的に行っている研修会では、多くの関係職種の参加を募り、個人の学びの場だけでなく、グループワークを通して交流の場を提供し、互いの職種の役割を理解し、チームとして連携が図れるよう支援する。

II 事業実施内容

1 必須の役割

A 地域リハ力の向上

(1) PT,OT,STを対象とした症例発表会の開催 実施回数：計 4 回 参加人数：計 312 名

< 詳細 >

日時：2023年4月26日 18：30～20：00

方法：Web開催（ZOOMウェビナー） 参加人数：81名

内容：「生活者の姿を把握するための歩行分析」

講師 了徳寺大学 健康科学部 理学療法学科 教授
盆子原 秀三氏

日時：2023年6月28日 18：30～20：00

方法：Web開催（ZOOMウェビナー） 参加人数：70名

内容：「がんのリハビリテーション～目標設定に必要な知識の整理～」

講師 埼玉医科大学 保健医療学部 理学療法学科 教授
国澤 洋介氏

日時：2023年7月26日 18：30～20：00

方法：Web開催（ZOOMウェビナー） 参加人数：86名

内容：「呼吸リハビリテーションの総論

～明日からできる呼吸リハビリの基本手技～」

講師 びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部
理学療法学科 教授 千住 秀明氏

日時：2023年10月25日 18：30～20：00

方法：Web開催（ZOOMウェビナー） 参加人数：75名

内容：「摂食嚥下障害の評価と訓練の実際」

講師 東京医科歯科大学 大学院 医歯学総合研究科 老化制御学系
口腔老化制御学講座 摂食嚥下リハビリテーション学分野 教授
戸原 玄氏

(2) かかりつけ医へのリハ知識・技術情報提供 実施回数：計 2 回 参加人数：計 116 名

< 詳細 >

日時：2023年11月17日 18：30～20：00

方法：Web開催（ZOOMウェビナー） 参加人数：49名

内容：「心臓リハビリテーションの普及と定着にむけて」

講師 順天堂大学大学院 医学研究科 循環器内科学 准教授
横山 美帆氏

日時：2024年2月28日 18：30～20：00

方法：Web開催（ZOOMウェビナー） 参加人数：67名

内容：「よく見る精神障害の基本的理解（統合失調症や気分障害など）」

講師 筑波大学 医学医療系精神医学 講師 松崎 朝樹氏

イ 訪問・通所リハの支援

(1) リハ施設従事者とケアマネジャーとの交流の場の設置 実施回数：1回 参加人数：27名

<詳細>

日時：2023年9月6日 19：00～21：00

方法：会場開催（シアター1010） 参加者：27名

内容：「認知症の方の支援～パーソン・センタード・ケアの観点から～」 グループワーク

講師 東京医療学院大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 准教授

内田 達二氏

(2) 標準研修テキストによるケアマネジャーへの研修の実施 実施回数：計3回 参加人数：計149名

<詳細>

日時：2023年5月24日 18：30～20：00

方法：Web開催（ZOOMウェビナー） 参加者：71名

内容：「地域で生活する高齢な糖尿病患者に対する運動療法、フットケアについて」

講師 目白大学 保健医療学部 理学療法学科 教授 万行 里佳氏

(再掲)

日時：2023年9月6日 19：00～21：00

方法：会場開催（シアター1010） 参加者：27名

内容：「認知症の方の支援～パーソン・センタード・ケアの観点から～」 グループワーク

講師 東京医療学院大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 准教授

内田 達二氏

日時：2023年12月7日 18：30～20：00

方法：Web開催（ZOOMウェビナー） 参加者：50名

内容：「心疾患患者における心理的症状とその介入-認知行動療法を用いて-」

講師 文教大学 人間科学部 心理学科 副学長 教授 石原 俊一氏

ウ 地域リハ関係者の連携強化

(1) 地域リハビリテーション支援事業の情報提供・共有のための地域連絡会開催

実施回数：1回 参加人数：22名

「区東北部 地域リハビリテーション協議会」

参加機関 足立区医師会、荒川区医師会、葛飾区医師会

足立区地域包括ケア推進課、荒川区高齢者福祉課、葛飾区地域包括ケア担当課

足立区障がい福祉センター、荒川区心身障害者福祉センター、葛飾区障害者施設課

東京都福祉局 障害者施策推進課

東京都保健医療局 医療政策部

東京都心身障害者福祉センター

東京都理学療法士協会、東京都作業療法士会、東京都言語聴覚士協会

あだちPOSネットワーク

2 選択する役割

ア 高次脳機能障害のリハビリテーション事業への支援

(1) 関係機関への講師派遣 実施回数：5回

<詳細>

日時：2023年7月12日

主催：葛飾区地域活動支援センター ウェルピアかつしか

内容：葛飾区高次脳機能障害者支援連絡会 講演会

「高次脳機能障害と共に歩む～就労支援を中心に～」

講師派遣 社会医療法人社団 医善会 いずみ記念病院 リハビリテーション科 専門医 高田 耕太郎

日時：2023年9月30日

主催：NPO法人 足立さくら会 高次脳機能障がいネットワーク

内容：足立区高次脳機能障がいネットワーク区民向け研修会

「就労へ向けた健康管理と家族のサポート」

講師派遣 社会医療法人社団 医善会 いずみ記念病院 リハビリテーション科 専門医 高田 耕太郎

日時：2023年10月18日

主催：足立区医師会

内容：足立区医師会・足立区 医療・介護スキルアップ研修

「地域リハビリテーションにおける専門職の役割と連携における考え方

～地域包括ケアシステムを念頭に～」

講師派遣 社会医療法人社団 医善会 いずみ記念病院 リハビリテーション科 専門医 高田 耕太郎

日時：2023年11月25日

主催：NPO法人 足立さくら会

内容：高次脳機能障害相談会・勉強会

講師派遣 社会医療法人社団 医善会 いずみ記念病院 リハビリテーション科 専門医 高田 耕太郎

日時：2024年1月24日

主催：葛飾区地域活動支援センター ウェルピアかつしか

内容：高次脳機能障害者事例検討会 グループディスカッション

講師派遣 社会医療法人社団 医善会 いずみ記念病院 リハビリテーション科 専門医 高田 耕太郎

イ 地域で特にニーズの高いテーマに関する研修

(1) 地域のリハビリテーション従事者の研修、援助

支援内容：研修会、症例検討会、グループワークの開催。

研修会実施回数：9回 援助実施回数：5回

(2) 直接地域住民と接する相談機関の支援

支援内容：電話、FAX、メールでの相談受付、訪問支援、講師派遣を実施。

相談支援実施回数：随時受付

(3) 福祉用具、住宅改修等の相談への対応に関わる支援

支援内容：相談支援を随時受付。

研修会内での福祉用具の理解促進：1回 相談支援：0回

(4) 地域の関係団体の支援

支援内容：講師派遣、相談支援を実施。

講師派遣実施回数：5回 相談支援実施回数：74件

(5) 連絡会、事例検討会の実施

支援内容：協議会、事例検討会、講師派遣の実施。

実施回数：6回

(6) その他、地域リハビリテーションの推進に必要な事業

支援内容：地域資源の調査、ホームページやFAX、メールによる情報発信

高次脳機能障害 支援マップの作成

III 取組の自己評価や今後の課題

研修会はWeb（オンライン会議システムZOOM）を中心に開催し、参加者総数576名の参加があった。参加者を職種別にみると理学療法士、ケアマネージャー、作業療法士、看護師、相談業務関連職種の順に参加が多く、経験年数別では新人～経験年数10年目以上まで幅広い経験年数の参加があり、地域で活躍する方々の良い学びの場となり、質の向上に寄与したと考える。

地域リハ関係職種の交流の場の設定として、参加型研修会（グループワーク）を開催した。参加者はケアマネージャーが最も多く、ケアマネージャーを中心とした支援の検討を行うことができた。交流の場としての顔の見える関係づくりは、対面で開催したいと考えているが、まだ以前のような頻度で行えていないため、今後は感染対策を踏まえ、今後の開催方法は検討していく。

関係機関との連携強化は、介護予防領域における現状や課題を把握するため、圏域内の各区役所の担当部署を訪問し、対面にて聞き取り調査を行った。そこでは、各区の取り組み状況や課題には相違があり、各区における「地域リハビリテーション連絡協議会」の設置の必要性を感じ、年度末の「区東北部 地域リハビリテーション協議会」においてそれらを共有し、次年度からの各区における「地域リハビリテーション連絡協議会」の設置に向け、意見交換を行った。相談を待つだけでなく、地域リハビリテーションに関わる関係機関にこちらから訪問し、現状を聞き取ることで、それぞれの支援がより効果的に行えるよう、連携強化を図っていく。

高次脳機能障害における地域支援については今後も地域資源の把握に努め、「高次脳機能障害 支援マップ」の更新に向け活動していく。また、災害リハビリテーションにおいてはまだ、地域の担当部署との顔の見える関係が構築できていないため、今後は防災訓練などへの参加も検討し、関係構築に努めていく。